

地域エネルギー供給構想検討分科会の設置について

Local Energy Supply Concept Study Working Group

JHIF 会員各位

日本水素エネルギー産業会議

会長 平田 賢

水素エネルギー社会への橋渡しとして期待されているプラグインハイブリッド自動車並びに運輸部門のエネルギー革新を背景として、今般、標記分科会を設立することといたしました。

当分科会は、プラグインハイブリッド自動車やエタノール燃料自動車などの当面実現可能と考えられる環境影響の小さな自動車技術を概観すると共に、地域エネルギー供給・利用の需要側の観点から社会システムとしての成立性を中心とした具体的な検討をしたいと考えています。

分科会活動は自動車技術の専門家、地方自治体などと共に、本検討に参加の意向のある会員企業様を中心として活動を進めていく予定であります。また一方、当検討を進めるうえで協力願いたい外部専門家、企業には適宜事務局より協力依頼をする予定です。

当分科会への参加は登録制といたします(費用は発生いたしません)ので、参加を希望される会員様におかれましては、別紙申込書に参加の旨ご記入頂き、事務局まで FAX でご連絡頂ければ幸いです。

< 目的・スコープ >

プラグインハイブリッド自動車(PHEV)を核とする地域エネルギーシステムについて構想し、その環境・エネルギー・経済効果を検討する。

なお、当面は「あおもり水素エネルギー創造戦略」との連携により、青森県内の社会実証・事業化を想定して検討を開始する。

検討は次の三つのフェースによって段階的に進める。

Phase 1

プラグインハイブリッド自動車(PHEV)の導入による効果を検討する。さらに、定置用燃料電池による給電・給熱の効果についても調べる。

Phase 2

上記システムにバイオマス利用を加えて、その効果を検討する。

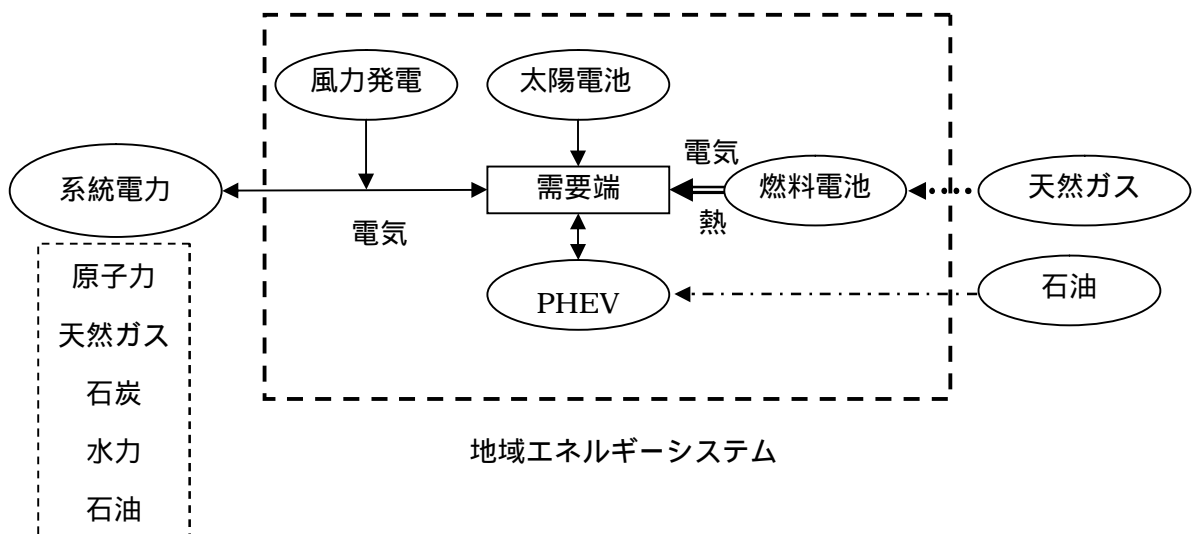
Phase 3

上記システムに原子力地域利用を加えて、その効果を検討する。

期待される効果としては、

- ・ PHEV 導入による省石油、環境保全、経済性向上のほかに、PHEV 電池のバッファ効果による地域エネルギーシステムの安定化、エネルギー有効利用など
- ・ 新しい技術・ビジネスチャンスの創出

< 地域エネルギーシステムのイメージ (Phase 1) >



< 分科会の構成・役割 >

構成： JHIF 会員企業および会員外の学識経験者・機関

役割： 情報交流・意見交換を通して地域エネルギー供給に関する研究開発を推進する

成果物： 活動レポートを年 1 回程度作成し、JHIF へ報告

< 分科会での主な検討予定テーマ (Phase 1) >

以下の検討テーマ毎に各機関への協力を要請することとする。

- ・ PHEV 導入の環境・エネルギー・経済効果
- ・ PHEV 電池による電力調整効果
- ・ V2G 制御・テレマティクス技術
- ・ Li-Ion 電池技術
- ・ 新エネルギーの導入・普及に関する効果
- ・ 原子力エネルギーの導入・普及に関する効果
- ・ 燃料電池による給電・給熱の効果
- ・ PHEV を核とする地域エネルギーシステム構想とその効果

注：Phase 1 の開催頻度は年 6 回程度

< 学識経験者・機関の協力 >

本分科会活動は会員企業・団体を核にして活動すると共に、必要に応じて、以下に例示する外部学識経験者・機関に研究協力を求めることとする。

学識経験者	地方自治体
自動車会社	電力会社
ガス会社	通信会社
電機会社	研究所
政府関係機関	

なお、会員企業・団体に対しては、必要に応じて情報提供など求めることがあるが、基本的に作業負担はないものとする。

< 費用など >

- ・ 参加費： 分科会参加費は無料、分科会内での発表などへの謝金はなし
- ・ 事務局経費： 主査・事務局経費、会場費用、コピーなどは JHIF 負担

以上